

胡適の独幕劇「終身大事」について

夏 嵐・磯部 祐子・森賀 一恵

富山大学人文学部紀要第58号抜刷

2013年2月

胡適の独幕劇「終身大事」について

夏 嵐・磯部 祐子・森賀 一恵

1. 「終身大事」誕生と上演

胡適による独幕劇「終身大事」は、中国話劇史上、白話で書かれた初めての、そして、本人の選択による結婚の自由をテーマとした最初の作品である。

話は、日本留学帰りの田亜梅が同じく日本留学帰りの陳氏と恋仲になり将来を誓い合うが、父母の反対に遭い、説得しようとするものの果たせず、最後は陳氏の「これは我々二人に関わることで、他の人には関わりない。君は自分で決めるべきだ」という手紙に背中を押され「そうよ、私は自分で決めるべきだわ」と家を飛び出すというもの。

中国では、古来、結婚は、「父母の命、仲人の言」によって決められ、個人の意志など重んじられることはなかった。田亜梅の父母は言う、相手の陳氏は「頼りになる人だと思う」「娘婿として彼ほどの人はいない」と。しかし、母は占い師から聞いた「生辰八字」と観音に祈って手にした「籤詩」^{おみくじ}を根拠に娘の結婚に反対し、父は、古代「田」氏と「陳」氏は同姓であったことを理由に娘の結婚を決して認めようとしなない。

占いや御神籤という迷信を信じる母、同姓不婚の因習とそれを無批判に固守する年長者に逆らうことを怖れる父、そして結婚は親が決めるものだという固定観念に縛られた父と母、それらは、西洋の思想や学問を学んだ当時の中国の青年たちの前に立ちはだかる大きな壁であった。如何に立ち向かうかが、時代の文学のテーマとなった。

作品は、1919年3月、『新青年』第6巻第3期に発表されたが、その前年1918年6月に、胡適は羅家倫との共訳で、イプセンの「人形の家」を同『新青年』に掲載している。田亜梅が「中国のノラ」と称されるように¹⁾、「終身大事」は、「人形の家」の影響下に創作された。

しかし、「終身大事」は発表当初は不評だったようである。胡適は、その跋文で「…この劇の中で田女士は最後には男性と出て行ってしまふので、その女学生の中に田女士を演じようとする者はおらず、その上、女学堂はこのような不道德な劇を演じるのには向いていなかったようだ。」²⁾と記している。当時、実際に演じようとするればなお抵抗のある作品であったのかもしれない。とはいえ、新しい文化を求める潮流は滾々と寄せてくる。魯迅の『己未日記』1919年

1) 洪深『中国新文学大系・戯劇集』「導言」（上海良友図書印刷公司 1935年）p.23

2) 『中国現代独幕話劇選』（人民文学出版社 1984年）p.12

原文「…因为戏里的田女士跟人跑了，这几位女学生竟没有人敢扮演田女士，况且女学堂似乎不便演这种不道德的戏!」

6月19日には、「晩、二弟とともに第一舞台に学生の演劇を見に行く。「終身大事」一幕、胡適之作、『新しい村長』四幕、南开学校作なり…」³⁾と記され、数か月後には上演されたことが分かる。この日の上演は北京の中等以上学校学生連合会がその経費捻出のために計画したものであった⁴⁾。「終身大事」『新しい村長』はいずれも当時の若者が求めていた、古い伝統的価値観の否定を顕在的なテーマとする作品であることから、その上演が具体的改革運動の一つとしての意味を担っていたことが想像される。

「終身大事」は、1923年6月と11月、北京の人芸戯劇専門学校学生の公演⁵⁾、また同年9月の上海戯劇協社演出担当の洪深による男女共演の「終身大事」⁶⁾と、その後も幾度か上演された。特に、洪深による上演は話劇史において記念すべきものであった。アメリカ留学から帰国したばかりの洪深が、旧劇改革の手始めに目をつけたのは、当時まだなお一般的だった男が女を演じる制度だった。しかし、社ではまだ新人だった洪深はあまり強い自己主張をするわけにもいかず、意図的に男女共演の演目と男が女を演じる演目を組み合わせて同じ日に上演し、観客に良し悪しの判断を委ねようと目論んだ。男女共演の演目は「終身大事」、男だけが演じる演目は欧陽予倩「浣婦」だった。その結果、「浣婦」は観衆の嘲笑により最後まで上演できなかったという。以後、男女共演が徐々に一般的となり、1924年に洪深演出の「ウィンダムミア夫人の扇」上演が成功をおさめることによって、話劇の女形は完全に歴史上の遺物になった。

しかし、「終身大事」はそれほど何度も上演されたわけではない。それは、独幕劇が娯楽目的の市場で上演されるには限界があったからである。演劇学者のペーカーが「一幕や二幕の芝居が不人気なのは、『令嬢ジュリー』のように、長くても一時間半なので、一晚に別の演目を組み合わせねばならないからである。まず、全てすばらしい演目による混合プログラムを作るのは至難の業である。観衆の方もまた普通は一晚のうちに二度も三度も新しい登場人物やプロットに適応させられることを好まない。……いわゆる実験的な劇場でなら別だが」⁷⁾と記すように、短い独幕劇は長さ(時間)の面で上演が困難なのであり、それは上演の場を自ずと限られたものにしただろう。

3) 『魯迅日記』「魯迅日記」(人民文学出版社 1958年) p.358

原文「十九日晴，下午曇。晩与二弟同至第一舞台观学生演剧，计《终身大事》一幕，胡适之作，《新村正》四幕，南开学校本也，夜半归」

4) 『魯迅全集』巻17(学習研究社 1985年) 参照。

5) 瀬戸宏『中国話劇成立史研究』(東方書店 2005年) pp.343-344

6) 劉遠峰編『中国新文学大系導言』(天津人民出版社 2009年) p.227

7) (美)喬治・貝克著，余上沅訳『戯劇技巧』(中国戯劇出版社2004年) p.109

George Peirce Baker : (*Dramatic Technique*) 原文「一幕或两幕长的剧之所以不受欢迎，是由于长剧也只演一个半小时，比如《朱莉小姐》，于是那么一个晚上还得凑上别的剧目。首先，要安排一个其中出戏都精彩的混合剧目，决不是容易做到的事。观众通常都不喜欢在一晚之内，两次、三次地使自己去适应新的人物、新的情节。…除非在所谓实验剧场里。」

しかし、これは単に「終身大事」一作品だけの問題ではなかった。五四時期以降、大量に翻訳された外国戯曲の大半は独幕劇で、中国で作られ始めた話劇にも独幕劇が多かった。この時代の独幕劇は、レーゼドラマとしてならば何の問題もなかったが、実際に上演するととなると、既に述べたように長さの面から最良のものとはいえなかった。同時に、多幕劇に良いものがあったとしてもそれを巧みに演出するレベルに達してはいなかった。そこで、二十年代を通じて芝居には上演できる「脚本がない」という問題が存在した。

一方、「終身大事」にはもう一つの問題があった。それは、文人臭が強いということであった。胡適は、避諱で名を改めた歴史上の人物を登場させて、巧みに田、陳二姓が二千五百年前は同族であったという物語にした。論語、陳成子、田成子などを知っている人たちにとっては、その「屁理屈」は笑いを誘うが、知識のない人にはわかりにくく、「田」字を「申」字に改めるという台詞などは字を識らないと何のことも理解できない。胡適の読者はもちろん識字層であり、論語、陳成子なども大半は知っているだろうから、理解する上で困難は生じないだろう。このような「屁理屈」に象徴される知的遊戯、それは、五四時期以降の長期にわたる話劇の特徴であった。芝居に詳しくない知識人が記したからである。上演に無関心な知識人たちの書く戯曲は、おのずと上演するよりは机上で読むのに適したものにならざるを得なかったのである。

2. 「終身大事」の価値

胡適が卓越した研究業績を挙げた学者であることは周知の事実で、戯曲を書いたのは「終身大事」が最初で最後である。胡適にとって戯曲を書くことは彼の「専門」ではなかったし、「終身大事」は、話劇手法が十分に成熟していない草創期に生まれた作品である。それにも関わらず、この独幕劇が文学史上でも話劇史上でも重要な位置を占めるのは、次のような理由による。

まず、伝統的な戯曲と異なる現代話劇の形式上の特徴が、「終身大事」にはすべて具わっているということである。完全な対話体、すきのない時間と空間の編成、モノローグによる状況説明がない、書面語でなく口語の用字用語など、現在では当たり前のこれらの特徴は、「終身大事」創作時（1919年）には画期的なことであっただろう。この意味で、この作品は一般に現代話劇最初の完成された作品だとみなされている⁸⁾。既に述べたように、当時、時代の先導的な雑誌であった『新青年』が1918年にはじめて「イプセン特集」を組み、翻訳劇「玩偶之家（人形の家）」を載せたが、その前後から、外国の戯曲の翻訳が盛んに行われるようになり、人々はそれらを話劇創作の手本とした。それ以前といえば、外国の戯曲の翻訳でさえ、章回小説のような分段法が採用され、モノローグで自己紹介をする人物が登場することも少なくなかった。

8) また、張彭春が1918年に書いた「新村正」を嚆矢とする説もある（陳白塵、董健主編『中国現代戯劇史稿』 中国戯劇出版社、1989年 p.85）。

また、文体もほとんどすべてが文言（場合によっては半文半白）であり、その上、作品の多くはその梗概が訳されたのみで、原作の全貌をうかがうことは難しかったのである。

このような状況下に、「終身大事」が生み出された。形式上整っているばかりでなく、作劇手法からみても非常に巧みである。娘の田亜梅が母親と衝突することで、父親の田教授の応援に対する期待が高まり、さらに父親の母親に対する厳しい叱責でそのドラマチックな期待はクライマックスに達する。ところがストーリーはそこで急転直下、期待されていた父親がまた娘と新たな衝突を起こすことで、娘のみならず観衆の期待も泡と消えうせ、それに続く衝撃的な結末への伏線となる。そして、舞台には登場しないが、娘が恋してやまない対象である陳氏の書いた一枚のメモが「家出」の導火線となる。

もちろん、この作品にも欠点がないわけではない。全体の構造からみれば、冒頭の古い師の占辞のくだりはやや冗長で、その残りの紙幅に全てのストーリーを詰め込むのは窮屈であるように思える。ヒロインの田亜梅の性格はこの窮屈さゆえに十分描ききれず、薄っぺらな印象しか残らない感もある。このことから、評論の中には「散文作家としての胡適は簡明で、清新で、生き生きした風格の大家だが、その他の文学作品の創作では力不足である。かなりの数にのぼる白話詩は、彼自身の言葉によれば、実験的なものだということだし、コーネル大学時代に白話でなく古文で翻訳した短編小説数編や、親の取り決める結婚を扱ったきわめて稚拙な独幕劇などはみな彼の文学的才能の乏しさを示している」⁹⁾ ¹⁰⁾ というものもある。この評論の「きわめて稚拙な独幕劇」とはまさしく「終身大事」のことである。しかし、「稚拙」という欠点があったとしても、短い独幕劇ながらストーリーに紆余曲折を設け、巧みに作り上げられた戯曲であることは間違いない。

「終身大事」の価値は、巧みな作劇法だけではなく、そこに描かれる「迷信打破、自由結婚」というテーマおよびそのテーマから来るヒロインの果敢な行動にもある。以後、多くの作品のモデルとなり、「迷信打破、自由結婚」を主張したパイオニア的意味を持つことになった。「迷信打破、自由結婚」は、二十世紀初期の「五四」時期には、流行の、先進的なテーマとして、様々なジャンルの作品に進んで取り上げられていった。

9) (美)格里德著、魯奇訳『胡適與中国的文芸復興』（江蘇人民出版社2000年 Jerome B. Grieder : *Hushi and the Chinese Renaissance*）pp.74-75原文「作为一位散文家，胡适是一位具有简明、清新、活泼风格的大师。但他在其他文学创作中却是能力不足的。相当数量的白话诗，按他自己说，都是实验性的，早在康乃尔大学时用古文而非白话翻译的一些短篇小说，以及描写包办婚姻问题的颇为笨拙的独幕剧等，都显示了他的文学才能的贫乏。」

10) 日本においても、「終身大事」について、人間描写の不十分さ、登場人物の衝突の薄弱さを指摘する向きもある（前掲の瀬戸宏『中国話劇成立史研究』p.270）が、実際の上演（2012年7月31日 於富山大学人文学部）を通じて、当時の教育を受けた若い女性の内面が巧みに描かれていること、人間観の衝突の構図が明確であることを実感した。

また、「迷信打破、自由結婚」というテーマを効果的に劇的に描くために、登場人物に「家を出る」という断固とした反抗的行動をとらせたことも当時在っては画期的なことであった。結婚は「父母の命、媒妁の言」によるという強固な伝統のある中国では、そのような反抗の仕方はきわめて衝撃的であった。この手法はイプセンの「人形の家」にヒントを得ただろう。前述のように彼自身がその中国語訳を『新青年』に載せたからである。とはいえ、胡適本人は「家を出る」というプロットがその後、多くの戯曲に競って用いられることになるとは思っていなかったかもしれない。洪深は話劇創作における胡適の重要性を以下のように評している。「胡適は人々に西洋演劇の手法を学ばせ、白話劇を書かせ、中国に本来あった演劇を改良しようとした。彼の目的は、演劇を、思想を広め、社会を組織し、人生を改善する道具にすることだった。……彼がイプセンを重要視したという事実からは彼の意図が読み取れる。……胡適がそのようにイプセン主義を推奨したことは、その後の中国話劇の発展にきわめて多大なる影響を及ぼした。……創作の面では、イプセンの劇中の思想のみならず、物語が語られる形式までまとめて模倣した¹¹⁾。二十年代のよく知られた独幕劇だけ取ってみても、「澆婦」(歐陽予倩、1922年)、「歡迎会」(成仿吾、1923年)、「兵變」(余上沅、1925年)などはすべて同じプロットが用いられている。胡適は生涯ただ一つの話劇作品しかものしていない。しかし話劇史上にいわゆる「家出劇」の端を開いた。それは、まさに彼が詩集『嘗試集』で白話詩創作の先駆者としてのそれと同じく、「高きに登りて一たび呼べば、^{ひと}応ずる者雲のごとし」という状況をもたらすことになった。

イプセンのノラの家出と胡適やその後の戯曲の登場人物の家出の精神的な意味合いが同じものであるか否かは検討すべき問題であるが、胡適らが「家出」という行動に五四時期特有の啓蒙的な意味を付与したということは確かで、それが胡適を代表とする当時の知識分子の現実の問題に対する解決法であったのだと考えられる。

「終身大事」が、その先進的な内容ゆえに上演困難であったことで浮かび上がる現実との矛盾、それはまさに五四時期の現実と理想との距離であり、それゆえにこそ、「家出」という行動の持つ反抗の意味がより深く認識できるともいえる。

11) 洪深『中国新文学大系・戯劇集』「導言」(上海良友図書印刷公司 1935年)原文「胡适叫人去学习西洋戏剧的方法, 写作白话剧, 改良中国原有的戏剧, 他底目的, 是想要把戏剧做传播思想, 组织社会, 改善人生的工具。…在他底重视易卜生这个事实, 完全可以看出他底用意了。…胡适的这样推崇易卜生主义, 对于后来中国话剧的发展, 影响是非常广大的。…在创作方面, 有若干的作家, 不仅是把易卜生剧中的思想, 甚至连故事讲出的形式, 一齐都模仿了。」

3. 「終身大事」¹²⁾

3. 「終身大事」対訳

終身大事(独幕话剧)

胡适

人物表

田太太

田先生

田亚梅女士

算命先生(瞎子)

田宅的女仆李妈

布景

田宅の会客室。右边有门,通大门。左边有门,通饭厅。背面有一张沙发榻。两旁有两长靠椅。中央一张小圆桌子,桌上有花瓶。桌边有两张座椅。左边靠壁有一张小写字台。墙上挂的是中国字画,夹着两块西洋荷兰派的风景画。这种中西合璧的陈设,很可表示这家人半新半旧的风气。

(开幕时,幕慢慢地上去,台下的人还可听见台上算命先生弹的弦子将完的声音。田太太坐在一张靠椅上。算命先生坐在桌边椅子上。

田太太:你说的话我不大听得懂。你看这门亲事可对得吗?

算命的:田太太,我是据命直言的。

一生の大事(結婚)

胡適

登場人物

田夫人

田氏

田亜梅

占い師(目が不自由)

田家の使用人 李ばあや

セット

田家の応接間。右手のドアは玄関に通じ、左手のドアはダイニングルームに通じる。正面にはソファベッド、中央には小さな丸テーブルがあり、上に花瓶がある。テーブルのわきには二脚の椅子が、左手の壁際には小さな書き物机があり、壁には中国の書画がかけられ、中に西洋のオランダ派の風景が二幅混じっている。このような中国西洋折衷の設えは、この家の住人の新旧相半ばする気風をよく表している。

[幕がゆっくり上がり、占い師が弦楽器をまさに弾き終わろうとしている。田夫人は背もたれのある椅子に、占い師はテーブルの側にある椅子に座っている。

田夫人:おっしゃることがよくわかりませんわ。この縁談はうまくいくの?

占い師:田奥様、私は運勢の通りに申し上げるだけです。我々占い師はみな運勢の通りに申します。

12) 中国話劇芸術研究会編『中国話劇百年劇作選』第1巻(中国出版集团・中国対外翻訳出版公司 2007年)による。

我们算命的都是据命直言的。你知道——

田太太：据命直言是怎样呢？

算命的：这门亲事是做不得的。要是你家这位姑娘嫁了这男人，将来一定没有好结果。

田太太：为什么呢？

算命的：你知道，我不过是据命直言。这男命是寅年亥日生的，女命是巳年申时生的。正合着命书上说的“蛇配虎，男克女。猪配猴，不到头”。这是合婚最忌的八字。属蛇的和属虎的已是相克的了。再加上亥日申时，猪猴相克，这是两重大忌的命。这两口儿要是成了夫妇，一定不能团圆到老。仔细看起来，男命强得多，是一个夫克妻之命，应该女人早年短命。田太太，我不过是据命直言，你不要见怪。

田太太：不怪，不怪。我是最喜欢人直说的。你这话一定不会错。昨天观音娘娘也是这样说。

算命的：哦！观音菩萨也这样说吗？

田太太：是的，观音娘娘签诗上说——让我寻出来念给你听。（走到写字台边，翻开抽屉，拿出一张黄纸，念道）这是七十八签，下下。签诗说：“夫妻前生定，因缘莫强求。逆天终有祸，婚姻不到头。”

ご存知でしょうが、……

田夫人：運勢の通りだとどうなの？

占い師：この縁談はだめです。もしお宅のお嬢様がこの男性に嫁がれたなら、将来きっとよくないことになりましょう。

田夫人：なぜですか？

占い師：ご存知のように、私は運勢の通りに申し上げるだけです。この男性は寅年亥日の生まれで、女性は巳年申の刻の生まれです。まさに占命書のいう「蛇を虎に配すれば、男が女に禍し、猪を猿に配すれば、添い遂げぬ」です。これは姻縁には最も忌まれる生辰八字です。巳年と寅年の相性が悪い上に、亥の日に申の刻です。猪と猿も相性が悪く、大きなタブーが二つ重なります。この二人が夫婦になれば、きっと幸せに添い遂げることはできません。詳細にみれば、男の運勢がずっと強くて、夫が妻に禍する運命です。女性が早死になさいます。田奥様、私は運命のままに申し上げているだけです。悪く思わないでください。

田夫人：思いませんとも。はっきりいってくださるのが一番いいですわ。あなたのおっしゃったことはきっと間違いありませんわ。昨日、観音様もそうおっしゃいましたもの。

占い師：ああ！観音菩薩もそうおっしゃったのですか？

田夫人：そうです。観音様のおみくじには、……持ってきて読んでお聞かせしますわ。（書き物机の所に行き、引き出しを開けて、黄色い紙を取り出して読む）七十八番で大凶です。おみくじには、「夫婦の縁は前世で決まり。縁談に無理は禁物。天に逆らえば災い有り。夫婦は添い遂げぬ」とあります。

算命的：“婚姻不到头！”这句诗和我刚才说的一个字都不错。

田太太：观音娘娘的话自然不会错的。不过这件事是我家姑娘的终身大事，我们做爷娘的总得二十四小心地办去。所以我昨日求了签诗，总还有点不放心。今天请你先生来看看这两个八字里可有什么合得拢的地方。

算命的：没有。没有。

田太太：娘娘的签诗只有几句话，不容易懂得。如今你算起命来，又合签诗一样。这个自然不用再说了。（取钱付算命先生）难为你。这是你对八字的钱。

算命的：（伸手接钱）不用得，不用得。多谢，多谢。想不到观音娘娘的签诗居然和我的话一样！（立起身来）

田太太：（喊道）李妈！（李妈从左边门进来）你领他出去。（李妈领算命先生从左边门出去）

田太太：（把桌上的红纸庚帖收起，折好了，放在写字台的抽屉里。又把黄纸签诗也放进去，口里说道）可惜！可惜这两口儿竟配不成！

田亚梅：（从右边门进来。她是一个二十三四岁的女子，穿着出门的大衣，脸上现出有心事的神气。进门后，一面脱下大衣，一面说道）妈，你怎么又算起命来了？我在门口碰着一个算命的走出去。你忘了爸爸不准算命的进门吗？

田太太：我的孩子，就只这一次，我下

占い師：「夫婦は添い遂げぬ」という句は今私が申し上げたのと一字も違っておりませんな。

田夫人：観音様のお言葉はもちろん間違いあるはずありません。ですが、これは家の娘の一生の大事ですから、親たるもの念には念を入れなくてはなりません。ですから、昨日おみくじを引いてもやっぱりちょっと安心できなくて、今日あなたにお越しいただいて、二人の生辰八字に合うところがあるかどうか見ていただいたのです。

占い師：全くありません。

田夫人：観音様のおみくじはほんの数句だけで、わかりにくかったのですが、あなたに占っていただいても、おみくじと同じなのですから、もう問題ありませんわ。（お金を取り出して占い師に渡す）御苦労さま。占いのお礼です。

占い師：（手を伸ばして受け取り）どういたしまして。ありがとうございます。観音様のおみくじも私の言ったことと同じだったとは！（立ち上がる）

田夫人：（叫ぶ）李ばあや！（李ばあやが左のドアから入ってくる）外へお連れして。（李ばあや占い師を左のドアから連れて出る）

田夫人：（テーブルの上の赤い紙の八字帖をきちんと折って引き出しに入れる。黄色い紙のおみくじも引き出しに入れて、ぶつぶつ独り言のように言う）残念だわ。この二人の相性が悪いだなんて！

田垂梅：（右のドアから入ってくる。二十三、四歳の娘で、外出用のコートを着て、何やら心配事が有りそうな表情。入って、コートを脱ぎながら言う）お母さん、どうしてまた占いなんてやったの？戸口で占い師が出ていくのに会ったわ。お父さんが占い師を家に入れてはいけないとおっしゃったのをお忘れになったの？

田夫人：今回だけよ、もうやらないわ。

次再不干了的。

田亜梅：但是你答应了爸爸以后不再算命了。

田太太：我知道，我知道，但是这一回我不能不请教算命的。我叫他来把你和那陈先生的八字排排看。

田亜梅：哦！哦！

田太太：你要知道，这是你的终身大事，我又只生了你一个女儿，我不能糊里糊涂地让你嫁一个合不来的人。

田亜梅：谁说我们合不来？我们是多年的朋友，一定合得来。

田太太：一定合不来。算命的说你们合不来。

田亜梅：他懂得什么？

田太太：不单是算命的这样说，观音菩萨也这样说。

田亜梅：什么？你还去问过观音菩萨吗？爸爸知道了更要说话了。

田太太：我知道你爸爸一定同我反对，无论我做什么事，他总同我反对。但是你想，我们老年人怎么敢决断你们的婚姻大事。我们无论怎样小心，保不住没有错。但是菩萨总不会骗人。况且菩萨说的话，和算命的说的，竟是一样，这就更可相信了。（立起来，走到写字台边，翻开抽屉）你自己看菩萨的签诗。

田亜梅：我不要看，我不要看！

田亜梅：だけど，お父さんにもう占いはしないと約束なされたわ。

田夫人：わかっていますとも。だけど，今回は占い師を呼ばないわけにはいかなかったのよ。占い師を呼んであなたと陳さんの生辰八字を見てもらったの。

田亜梅：まあ。

田夫人：わかっているでしょう。これはあなたの一生の大事だし，私にはあなたという娘が一人いるだけよ。わけもわからずに相性が悪い人に嫁がせるわけにはいかないわ。

田亜梅：相性が悪いわけがないわ。私たちは長年の友人だから，絶対に相性がいいわ。

田夫人：絶対に相性が悪いわ。占い師はあなたたちが相性が悪いといったわ。

田亜梅：占い師に何がわかるの？

田夫人：占い師だけじゃなくって，観音菩薩もおっしゃったの。

田亜梅：何ですって？観音菩薩まで拌みにいらしゃったの？お父さんが知ったら，もっと叱られるわ。

田夫人：お父さんがきつと私に反対なさるのはわかっているわ。私が何をしてもいつだって反対なさるんだから。だけど，考えてみて，私たち年輩の者がどうしてあなたたちの縁談を決められる？どんなに気をつけても，間違いがないとは言い切れないわ。でも，観音菩薩は嘘をおっしゃらないわ。それに観音様の言葉と占い師の言葉が一緒なから，より確かだわ。（立ち上がって，書き物机の所に行き，引き出しを開けて）自分で観音様のおみくじをごらんさないな。

田亜梅：いやよ，見たくないわ！

田太太：（不得已把抽屉盖了）我的孩子，你不要这样固执。那位陈先生我是很喜欢他的。我看他是一个很可靠的人。你在东洋认得他好几年了，你说你很知道他的为人。但是，你年纪还轻，又没有阅历，你的眼力也许会错的。就是我们活了五六十岁的人，也还不敢相信自己的眼力。因为我不敢相信自己，所以我去问菩萨又去问算命的。菩萨说对不得，算命的也说对不得，这还会错吗？算命的说，你们的八字正是命书最忌的八字，叫做什么“猪配猴，不到头”，正因为你是巳年申时生的，他是一一

田亚梅：你不要说了，妈，我不要听这些话。（双手遮着脸，带着哭声）我不爱听这些话！我知道爸爸不会同你一样主意。他一定不会。

田太太：我不管他打什么主意。我的女儿嫁人，总得我肯。（走到她女儿身边，用手巾替她揩眼泪）不要掉眼泪。我走开去，让你仔细想想。我们总是替你打算，总想你好。我去看午饭好了没有。你爸爸就要回来了。不要哭了，好孩子。

〔田太太从饭厅的门进去了。〕

田亚梅：（揩着眼泪，抬起头来，看见李妈从外边进来，她用手招呼她走近些，低声说）李妈，我要你帮我的忙。

田夫人：（やむを得ず引き出しを閉めて）ねえ，そんなに意固地にならないで。私はあの陳さんが好きよ。私はあの人は頼りになる人だと思うわ。あなたは日本で彼と知り合って何年もたつから，彼の人柄はよくわかってるって言うんでしょう。だけど，あなたはまだ若いし，経験もないから，見誤ることだってあるわ。五、六十歳の私たちだって，自分の人を見る目が信じられないもの。自分が信じられないから，観音様を拝みに行つて，占い師も呼んだのよ。観音様が相性が悪いとおっしゃつて，占い師も相性が悪いというのだから，間違いあるはずないでしょう。占い師はあなたたちの生辰八字はちょうど占命書が一番忌む「猪を猿に配すれば，添い遂げぬ」とかいうものらしいわ。あなたが巳年申の刻生まれで，陳さんが…

田亚梅：もうやめて，お母さん，そんな話聞きたくないわ。（両手で顔を覆い，泣き声で）そんな話聞きたくないわ！お父さんはお母さんと同じお考えのはずがないとわかつてるわ。絶対にそんなはずないわ。

田夫人：お父さんの考えはどうでもいいわ。私の娘が嫁ぐのだから，私が納得しないとだめよ。（娘の側へ行き，ハンカチで娘の涙をぬぐつて）泣かないで。私は出て行くから，よく考えてみなさい。私たちはいつだってあなたの為を思って，あなたによかれと思っているの。お昼の準備ができたかどうか見てくるわ。お父さんがもう帰ってくるわ。泣かないで。

〔田夫人はダイニングルームのドアを開けて入っていく。〕

田亚梅：（涙を拭いて顔を挙げ，李ばあやが外から入ってくるのを見て，手招きし，小声で）李ばあや，私を助けてほしいの。お母さんは私が陳さん

我妈不准我嫁陈先生——

李妈：可惜，可惜！陈先生是一个很懂礼的君子人。今儿早晨，我在路上碰着他，他还点头招呼我咧。

田亚梅：是的，他看见你带了算命先生来家，他怕我们的事有什么变卦，所以他立刻打电话到学堂去告诉我。我回来时，他在他的汽车里远远地跟在后面。这时候恐怕他还在这条街的口子上等候我的信息。你去告诉他，说我妈不许我们结婚。但是爸爸就回来了，他自然会帮我们。你叫他把汽车停到后面街上去等我的回信。你就去罢。（李妈转身将出去）回来！（李妈回转身来）你告诉他——你叫他——你叫他不要着急！

（李妈微笑出去。

田亚梅：（走到写字台边，翻开抽屉，偷看抽屉里的东西。伸出手表看道）爸爸应该回来了，快十二点了。

（田先生约摸五十岁的样子，从外面进来。

田亚梅：（忙把抽屉盖了。站起来接她父亲）爸爸，你回来了！妈说，……妈有要紧话同你商量。——有很要紧的话。

田先生：什么要紧话？你先告诉我。

田亚梅：妈会告诉你的。（走到饭厅边，喊道）妈，妈，爸爸回来了。

と結婚するのを許さないの……

李妈：まあ、残念なこと！陳さんは礼をわきまえた君子です。今朝、道でお会いしたら、頭を下げて挨拶してくださいました。

田亜梅：そうよ、陳さんはあなたが占い師を家に連れてくるのを見て、私たちの縁談に何か問題が起こったのではないかと心配して、すぐに学堂に電話してきて私に話したの。私が帰ってくる時には、あの人は車に乗って離れて後ろからついてきたわ。今頃まだこの通りの入り口で私の情報を待ってるんじゃないかしら。行ってあの人に、お母さんが私たちの結婚を許さないんだと伝えて。だけど、お父さんが帰ってきたら、もちろん私たちの味方をして下さるわ。車を裏通りに止めて私の返事を待つように伝えて。行って頂戴。（李ばあやは向きを変えて出て行こうとする）戻って！（李ばあやは向きを変えて戻ってくる）あの人に……あのの人に……心配しないでと伝えて

〔李ばあや微笑みながら出ていく。〕

田亜梅：（書き物机の所に行って引き出しを開け、引き出しの中のものを偷み見る。手を伸ばして腕時計を見て言う）お父さんはもう帰ってくるはずだわ、もうすぐ十二時だもの。

〔田さんは五十がらみの男である。外から入ってくる。〕

田亜梅：（急いで引き出しを閉め。立ち上がって父親を迎える）お父さん、お帰りなさい！お母さんが、……お母さんが御相談したい大事な話があるんですって。……とっても大事なお話ですって。

田 氏：どんな大事な話だ？お前がまず話しなさい。

田亜梅：お母さんがお話しになるわ。（ダイニングルームの方に行き叫ぶ）お母さん、お父さんがお帰りよ。

田先生：不知道你们又弄什么鬼了。（坐在一张靠椅上。田太太从饭厅那边过来）亚梅说你要有要紧话，——很要紧的话要同我商量。

田太太：是的，很要紧的话。（坐在左边椅子上）我说的是陈家的这们亲事。

田先生：不错，我这几天心里也在盘算这件事。

田太太：很好，我们都该盘算这件事了。这是亚梅的终身大事，我一想起这事如何重大，我就发愁，连饭都吃不下了，觉也睡不着了。那位陈先生我们虽然见过好几次，我心里总有点不放心。从前人家看女婿总不过偷看一面就完了。现在我们见面越多了，我们的责任更不容易担了。他家是很有钱的，但是有钱人家的子弟总是坏的多，好的少。他是一个外国留学生，但是许多留学生回来不久就把他们的原配的妻子休了。

田先生：你讲了这一大篇，究竟是什么主意？

田太太：我的主意是，我们替女儿办这件大事，不能相信自己的主意。我不敢相信自己自己。所以我昨儿到观音庵去问菩萨。

田先生：什么？你不是答应我不再去烧香拜佛了吗？

田太太：我是为了女儿的事去的。

田先生：哼！哼！算了罢。你说罢。

田太太：我去庵里求了一签。签诗上说，这门亲事是做不得的。我把签诗给你

田 氏：お前たちはまた何をわけのわからないことをやってるんだ。（背もたれ付きの椅子に座る。田夫人がダイニングルームの方からやってくる）亜梅が、お前が大事な話があるというんだが——私と相談したい大事な話だとか。

田夫人：そうです、とても大事な話です。（左側の椅子に座る）陳家との縁談の事なんです。

田 氏：そうだな、私もここ数日その事をずっと思案していた。

田夫人：よかったわ、私たちはどちらもこの事を思案すべきですわ。これは亜梅の一生の大事で、この事がどんなに重大か考えただけで、心配で、食事ものを通らなくなるし、眠れなくなるわ。あの陳さんには何度も会ったけれど、やっぱりどうしても安心できないの。昔は娘婿はちらっと盗み見るだけだった。今は会う機会が増えて、親も責任が一層重くなったわ。彼の家はお金持ちだけれど、金持ちの子弟は悪い人が多くて、良い人は少ないものよ。彼は外国に留学していたけれど、留学生には帰国してすぐに最初の奥さんを離縁する人が多いわ。

田 氏：そんなに滔々とまくしたてて、いったい何が言いたいんだ？

田夫人：私が言いたいのは、娘の縁談を決めるのに、自分の考えは信じられないということよ。私は自分が信じられないから、観音庵にいて菩薩にお伺いをたてたのよ。

田 氏：何だって？お前はもう神仏を拝みに行かないと約束したじゃないか？

田夫人：娘の大事の為にいったのよ。

田 氏：ふん！もういい。話を続けろ。

田夫人：庵に行っておみくじを引いたら、この縁談はだめだと書いてあったの。おみくじをお見せず

看。

(要去开抽屉。)

田先生：呸！呸！我不要看。我不相信这些东西！你说这是女儿的终身大事，你不敢相信自己，难道那泥塑木雕的菩萨就可相信吗？

田亚梅：(高兴起来)我说爸爸是不信这些事的。(走近她父亲身边)谢谢你。我们应该相信自己的主意，可不是吗？

田太太：不单是菩萨这样说。

田先生：哦！还有谁呢？

田太太：我求了签诗，心里还不很放心，总还有点疑惑。所以我叫人去请城里顶有名的算命先生张瞎子来排八字。

田先生：哼！哼！你又忘记你答应我的话了。

田太太：我也知道。但是我为了女儿的**大事，心里疑惑不定，没有主张，不得不去找他来决断决断。

田先生：谁叫你先去找菩萨惹起这点疑惑呢？你先就不该去问菩萨，——你该先来问我。

田太太：罪过，罪过，阿弥陀佛——那算命的说的话同菩萨说的一个样儿。这不是一桩奇事吗？

田先生：算了罢！算了罢！不要再胡说乱道了。你有眼睛，自己不肯用，反去请教那没有眼睛的瞎子，这不是笑话吗？

田亚梅：爸爸，你这话点也不错。我早

るわ。

[引き出しをあけに行こうとする。]

田 氏：ばかな！私は見たくない。私はそんなものは信じない！娘の一生の大事だぞ。お前は自分が信じられないからって、泥や木の菩薩が信じられるとでもいうのか。

田亜梅：(喜んで)だから、お父さんはこんなもの信じないと言ったでしょ(父親の側により)ありがとう。私たちは自分の考えを信じるべきよね、そうでしょう？

田夫人：観音様だけじゃないのよ。

田 氏：おお！まだ他に誰が？

田夫人：おみくじを引いても、まだ安心できなくて、やっぱりどうしていいかわからなかったの、町で有名な占い師の張瞎子を呼びに行かせて占ってもらったのよ。

田 氏：ふん！また自分が約束したことを忘れたのか。

田夫人：わかってはいるわ。だけど、娘の大事よ、どうしていいかわからないけれど、自分で決められないから、占い師を呼んで決めてもらうしかなかったのよ。

田 氏：先に観音なんか拝みに行って心配の種を拾うからだ。先ず菩薩でなくて、私に聞くべきだ。

田夫人：罰当たりな、南無阿弥陀仏。その占い師が言った事は観音菩薩のおみくじと同じだったの。不思議じゃないこと？

田 氏：もういい。もうでたらめ言うな！お前は目があるのに、使おうとせず、目の不自由な占い師にきくなんて、お笑いじゃないか？

田亜梅：お父さん、まったくおっしゃる通りよ。私

就知道你是帮助我们的。

田太太：(怒向她女儿) 亏你说得出，“帮助我们的”，谁是“你们”？“你们”是谁？你也不害羞！（用手巾蒙面哭了）你们一齐通同起来反对我，我女儿的终身大事，我做娘的管不得吗？

田先生：正因为这是女儿的终身大事，所以我们做父母的该格外小心，格外慎重。什么泥菩萨哪，什么算命合婚哪，都是骗人的，都不可相信。亚梅你说是不是？

田亚梅：正是，正是。我早知道你决不会相信这些东西。

田先生：现在不许再讲那些迷信的话了。泥菩萨，瞎算命，一齐丢去！我们要正正经经地讨论这件事，（对田太太）不要哭了。（对田亚梅）你也坐下。（田亚梅在沙发榻上坐下）

田先生：亚梅，我不愿意你同那姓陈的结婚。

田亚梅：(惊慌) 爸爸你是同我开玩笑，还是当真？

田先生：当真。这门亲事一定做不得的。我说这话，心里很难过，但是我不能不说。

田亚梅：你莫非看出他有什么不好的地方？

田先生：没有。我很喜欢他。拣女婿拣中了他，再好也没有了，因此我心理更不好过。

田亚梅：(摸不着头脑) 你又不相信菩

たちの味方をして下さるって、とっくにわかってたわ。

田夫人：(怒って娘に) よくそんなことが言えたものね。「私たちの味方」ですって、「私たち」って誰よ。「私たち」って？ 恥ずかしくないの？ (ハンカチで顔を覆って泣く) あなたたちが一緒になって反対するのね。私の娘の一生の大事に、母親たる私がかまっちゃいけないの？

田 氏：娘の一生の大事だからこそ、わたしたち父母たるもの特に気をつけ、特に慎重にしなきゃならん。菩薩だの、結婚占いだのはみな詐欺だ。みな信じられん。亜梅そうだろう？

田亜梅：ええ、そうよ。お父さんがそんなものお信じにならないって、とっくにわかってました。

田 氏：もうそういった迷信は口にするな。菩薩だとか、占い師だとかは、みんなやめろ。我々はこのことを真面目に討論しなきゃならん。（田夫人に）泣くな。（田亜梅に）お前も座れ。（田亜梅はソファに座る）

田 氏：亜梅、私はお前にあの陳という男と結婚して欲しくない。

田亜梅：(驚きあわてて) お父さん、私をからかってらっしゃるの、それとも本気なの？

田 氏：本気だ。この縁談は絶対にだめだ。こんなことを言うのは辛い、言わないわけにはいかない。

田亜梅：彼になにかよくないところでも？

田 氏：ない。私は彼が好きだ。娘婿として彼ほどの人はいない。だから、よけいに辛いんだ。

田亜梅：(わけがわからず) 菩薩や占いを信じるわ

薩和算命？

田先生：決不，決不。

田太太与田亚梅：（同时问）那么究竟为了什么呢？

田先生：好孩子，你出洋很久了，竟把中国的风俗规矩全都忘了。你连祖宗定下的祠规都不记得了。

田亚梅：我同陈家结婚，犯了那一条祠规？

田先生：我拿给你看。（站起来从饭厅边进去）

田太太：我意想不出什么。阿弥陀佛，这样也好，只要他不肯许就是了。

田亚梅：（低头细想，忽然抬起头显出决心的神气）我知道怎么办了。

田先生：（捧着一大部族谱进来）你瞧，这是我们的族谱。（翻开书页，乱堆在桌上）你瞧，我们田家两千五百年的祖宗，可有一个姓田的和姓陈的结亲？

田亚梅：为什么姓田的不能和姓陈的结婚呢？

田先生：因为中国的风俗不准同姓的结婚。

田亚梅：我们并不同姓。他家姓陈我家姓田。

田先生：我们是同姓的。中国古时的人把陈字和田字读成一样的音。我们的姓有时写作田字，有时写作陈字，其实是一样的。你小时候读过《论语》吗？

けではないんでしょう？

田 氏：決して信じない。

田夫人と田亜梅：（同時に尋ねる）じゃあ、いったいどうして？

田 氏：お前は長く外国に行つて、中国の風俗や決まりをすっかり忘れてしまったな。ご先祖様からの家規さえすっかり忘れてしまった。

田亜梅：我が陳家にお嫁に行くのが、どの規則に反するの？

田 氏：持ってきて見せてやる。（立ち上がってダイニングルームの方か出て行く）

田夫人：なんだかわからないけれど、南無阿弥陀仏、これでもいいわ。あの人が承知しさえしなければいいわ。

田亜梅：（頭を下げて熟考していたが、突然頭を上げて決心したような顔つきをする）どうすべきかわかったわ。

田 氏：（大部の族譜を捧げもって入ってくる）御覧、これはわが家の族譜だ。（ページをめくって、テーブルに乱雑に置く）見てごらん、我々田家二千五百年の先祖に、一人でも陳姓の者と結婚した者がいるか。

田亜梅：どうして田姓の者が陳姓の者と結婚できないの？

田 氏：中国の風習では同姓の結婚は許されていないからだ。

田亜梅：私たち同姓なんかじゃないわ。彼の姓は陳で、私の姓は田よ。

田 氏：我々は同姓だ。中国では昔、「陳」の字と「田」の字を同じ音で読んでいた。私たちの姓は時によって田と書いたり陳と書いたりした。子供の頃、『論語』を読んだことがあるか？

田亜梅：读过的，不大记得了。

田先生：《论语》上有陈成子，旁的书上都写作田成子，便是这个道理。两千五百年前，姓陈的和姓田的只是一家。后来年代久了，那写作田字的便认定姓田，写作陈字的便认定姓陈。外面看起来好像是两姓，其实是一家。所以两姓祠堂里都不准通婚。

田亜梅：难道两千五百年前同姓的男女也不能通婚吗？

田先生：不能。

田亜梅：爸爸，你是明白道理的人，一定不认这种没有道理的祠规。

田先生：我不认它也无用。社会承认它。那班老先生们承认它。你叫我怎么样呢？还不单是姓田的和姓陈的呢。我们衙门里有一位高先生告诉我，他们那边姓高的祖上本是元朝末年明朝初年陈友谅的子孙，后来改姓高。他们因为六百年前姓陈所以不同姓陈的结亲，又因为两千五百年前姓陈的本又姓田，所以不同姓田的结亲。

田亜梅：这更没有道理了！

田先生：管他有理无理，这是祠堂里的规矩，我们犯了祠规就要革出祠堂。前几十年有一家姓田的在南边做生意，就把女儿嫁给姓陈的。后来那女的死了，陈家祠堂里的族长不准她进祠堂。她家花了多少钱，捐到祠堂里做罚款，还把“田”字当中那一直拉长了，上下都出了头，改成了“申”字，

田亜梅：読んだことはありますが、あまり覚えていません。

田 氏：『論語』に陳成子という人が出てくるが、他の書物にはみな田成子と書いてある。これも同じ理屈だ。二千五百年前、陳姓と田姓は同じ一族だった。後に、長い時がたって、田と書いていた者は田姓、陳と書いていた者は陳姓になった。外から見れば、違う姓のようだが、実は同じだ。だから、この二姓の祠堂では通婚を許さない。

田亜梅：二千五百年前に同姓だった男女も結婚できないとでもおっしゃるの？

田 氏：できない。

田亜梅：お父さん、お父さんは理屈のわかる人だから、きっとそんな理屈にあわない家規なんて認めないでしょう。

田 氏：私が認めなくてもどうにもならん。社会がそれを認め、年輩の方々もそれを認めている。田姓と陳姓だけじゃないぞ。私の役所の高さんの話だと、彼の高という姓の祖先はもともと元末明初の陳友諒の子孫で、のちに姓を高に改めたんだが、六百年前に陳という姓だったから、陳という姓の人とは結婚しないし、二千五百年前に陳姓の人は田姓だったから、田姓の人とも結婚しないそうだ。

田亜梅：もっと理屈に合わないわ。

田 氏：理屈に合おうが合うまいが、ご先祖からの家規なんだ。それを破れば、祠堂から追い出される。数十年前に、ある田姓の一家が南方で商売をしていて、娘を陳姓の者に嫁がせたが、のちにその娘が死んだら、陳家の族長は彼女を祠堂に祭ることを許さなかった。彼女の実家はいくら罰金を祠堂に収めたか。その上、「田」の字の真ん中の一画を伸ばして上下に出し、「申」の字に改めて、

才许她进祠堂。

田亚梅：那是很容易的事。我情愿把我的姓当中一直也拉长了改作“申”字。

田先生：说得好容易！你情愿，我不情愿咧！我不肯为了你的事连累我受那班老先生们的笑骂。

田亚梅：（气得哭了）但是我们并不同姓！

田先生：我们族谱上说是同姓，那班老先生们也都说是同姓。我已经问过许多老先生了，他们都是这样说，你要知道，我们做爹娘的，办儿女的终身大事，虽然不该听泥菩萨瞎算命的话，但是那班老先生的话是不能不听的。

田亚梅：（作哀告的样子）爸爸！——

田先生：你听我说完了。还有一层难处。要是你这位姓陈的朋友是没有钱的，倒也罢了，不幸他又是很有钱的人家。我要把你嫁了他，那班老先生们必定说我贪图他家有财，所以连祖宗都不顾，就把女儿卖给他了。

田亚梅：（绝望了）爸爸！你一生要打破迷信的风俗，到底还打破不了迷信的祠规！这是我做梦也想不到的！

田先生：你恼我吗？这也难怪。你心里自然有点不快活。你这种气头上的话，我决不怪你，——决不怪你。

李妈：（从左边门出来）午饭摆好了。

田先生：来，来，来。我们吃了饭再谈

やっとならして入れてもらえたんだ。

田亚梅：それは簡単なことよ。私は喜んで姓の真ん中の一画を伸ばして「申」に改めるわ。

田 氏：簡単に言うが、お前が望んでも、私は望まん。お前の所為で年輩の方々にあざけりののしられるのもいやだ。

田亚梅：（腹を立てて泣き）だけど私たち同姓なんかじゃないわ。

田 氏：我々の族譜では同姓とあるし、年輩の方々も同姓だとおっしゃる。たくさんの方々にうかがって見たが、みなそうおっしゃった。わかってくれ。我々父母たる者は、娘の一生の大事に当たって、菩薩や占い師の言うことは聞くべきではないが、年輩の方々の話は聞かないわけにはいかんのだ。

田亚梅：（哀願するように）お父さん！——

田 氏：最後まで話を聴きなさい。まだ問題がある。もし、お前の陳という友達に金がなければいい。あいにく、また家が金持ちだ。もしお前を嫁にやったら、年配の方々がきっと私が彼の金目当てで、ご先祖様のことも考えず、娘を売ったというだろう。

田亚梅：（絶望して）お父さん！お父さんは一生、迷信の風習を打ち破ってきたのに、結局は迷信の家規は打ち破れないのね。そんなこと、夢にも思わなかったわ。

田 氏：私に腹を立てているのか？それも無理はない。当然心中面白くないだろう。腹立ち紛れの言葉を責めたりはしない、……決して。

李妈：（左から出て来る）ご昼食がご用意できました。

田 氏：さあ、さあ、食事をしてからまた話そう。

罢。我肚里饿得很了。

(先走进饭厅去。)

田太太：(走近她女儿) 不要哭了。你要自己明白,我们都是想你好。忍住。我们吃饭去。

田亚梅：我不要吃饭。

田太太：不要这样固执。我先去,你定一定心就来。我们等你咧。(也进饭厅去了。李妈把门随手关上,自己站着不动)

田亚梅：(抬起头来,看见李妈) 陈先生还在汽车里等着吗?

李妈：是的。这是他给你的信,用铅笔写的。(摸出一张纸,递与田亚梅)

田亚梅：(读信)“此事只关系我们两人与别人无关你该自己决断”(重念末句)“你该自己决断!”是的,我该自己决断!(对李妈说)你进去告诉我爸爸和妈妈,叫他们先吃饭不用等我。我要停一会儿再吃。(李妈点头自进去。田亚梅站起来,穿上大衣,在写字台上匆匆写了一张字条,压在桌上花瓶底下。她回头一望,匆匆从右边门出去了。略停了一会儿)

田太太：(戏台里的声音) 亚梅你快来吃饭,菜要冰冷了,(门里出来)你哪里去了? 亚梅!

田先生：(戏台里) 随她罢! 她生了气了,让她平平气就会好了。(门里出来) 她出去了?

田太太：她穿了大衣出去了。怕是回学

とても腹が減った。

[先にダイニングルームへ行く。]

田夫人：(娘に近づき) 泣かないで。わかってくれないと、私たちはあなたによかれと思っているのよ。我慢なさい。食事しにいきましょう。

田亜梅：食べたくないわ。

田夫人：そんなに意固地にならないで。先に行ってるから、心を落ち着けてからいらっしゃい。あなたを待ってるから。(やはり食堂に入る。李ばあやは、すぐさまドアを閉め、自分は立って動かない。)

田亜梅：(頭を上げて、李ばあやを見る) 陳さんはまだ車で待ってらっしゃる?

李妈：はい。これは陳様からのお嬢様宛の手紙で、鉛筆書きです。(紙を探り出し、田亜梅に渡す)

田亜梅：(手紙を読む)「これは我々二人に関わることで、他の人には関わりない。君は自分で決めるべきだ」(最後の文をもう一度読む)「君は自分で決めるべきだ」。そうよ、私は自分で決めるべきだわ。(李ばあやに)行ってお父さんとお母さんに、私を待たないで先に食事をするよう伝えてちょうだい。私はもう少ししてから食べるからって。(李ばあやはうなずいて行く。田亜梅は立ち上がり、コートを着て、書き物机でそそくさとメモをしたため、テーブルの花瓶の下に挟む。振り返えるが、急いで右のドアから出て行く。少し立ち止まる。)

田夫人：(中から声) 亜梅、早く来て食べなさい、お料理が冷めるわ。(ドアから出てきて) どこに行ったの? 亜梅!

田 氏：(中から) 好きにさせておきなさい。腹を立ててるんだ。落ち着けば、大丈夫だ。(ドアから出てきて) 出かけたのか?

田夫人：コートを着て出て行ったわ。たぶん学堂に

堂里去了。

田先生：（看见花瓶底下的字条）这是什么？（取字条念道）“这是孩儿的终身大事，孩儿该自己决断，孩儿现在坐了陈先生的汽车去了。暂时告辞了。”

〔田太太听了，身子往后一仰，坐倒在靠椅上。田先生冲向右边的门，到了门边，又回头一望，眼睁睁地显出迟疑不决的神气。〕

——幕落

戻ったんでしょう。

田 氏：（花瓶の下のメモを見て）これは何だ？（メモを取って読む）「これは私の一生の大事ですから、私が自分で決めます。私は陳さんの車に乗ってまいります。しばらくのお別れです」。

〔田夫人はそれを聞いて、仰向けに背もたれ付きの椅子に倒れこむ。田氏は右のドアに突進するが、ドアのところに行って、また振り返るが、なすすべもなくためらう様子。〕

——幕下りる

なお、「終身大事」は、「催眠術」（『児童文学叢書・児童劇本』第三冊。中華民国16年 商務印書館刊）とともに、2012年富山大学人文学部中国言語文化演習の授業（担当：夏嵐・大野圭介・森賀一恵・磯部祐子）において取り上げ、作品解説を試みた。また、2012年7月31日には人文学部6番教室において履修者全員で中国語による公開上演を行った。